

来週の金融市場見通し

< 10/6 ~ 10/10 >



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

米国では10月からの新会計年度の歳出をまかなうための「つなぎ予算」が成立せず、1日から政府機関の一部が閉鎖しています。政府閉鎖が米国内総生産（GDP）を押し下げる可能性があります。市場では、米景気の減速を受けて米連邦準備理事会（FRB）が追加利下げに踏み切るとの観測が強まっています。政府閉鎖の影響で3日の米雇用統計発表が見送られる公算が大きい状況です。来週は、米国のつなぎ予算をめぐる動向に加え、自民党新総裁の政策などを確認しながら方向感を探ることになりそうです。

◆日本株：自民党総裁選を受けて、荒い動きか

【予想レンジ】日経平均株価

(来週) 43,000～47,000円 (10月) 40,000～47,000円



(出所) 信頼できると判断したデータをもとにしんきん投信作成

今週の日本株は、底堅い動きとなりました。米政府機関の一部閉鎖が決まったことが株価の重しとなりましたが、人工知能（AI）普及の恩恵を受けるとみられるソフトバンクグループの上昇が牽引し、やや買いが優勢となりました。

来週は、自民党総裁選を受けて、荒い動きとなる可能性があります。今週末に自民党新総裁が決まります。小泉氏が勝利する可能性が高いと予想されていますが、仮に高市氏や林氏が勝利した場合、市場の反応が大きくなることが想定されます。新しい総裁の経済政策の方針や人事が相場を動かす材料となる可能性があります。また、米国の政治動向も注目です。予算をめぐる交渉が進展し、政府機関が再開すると、株式市場は好感することが予想されます。

◆長期金利：自民党新総裁にらみ

【予想レンジ】長期金利（新発10年債利回り）

(来週) 1.60～1.72% (10月) 1.40～1.80%



(出所) 信頼できると判断したデータをもとにしんきん投信作成

今週の長期金利は、FRBの利下げ継続が意識され、米長期金利が低下したことを受けて一旦低下したものの、日銀による利上げが意識される中、10年国債入札が低調な結果になったことなどから上昇する動きになりました。

来週は自民党総裁選の結果に左右される可能性があります。財政拡張に積極的な人物が新総裁に選出されると、長期金利に上昇圧力がかかる可能性があります。一方、財政規律を重視する人物が選出された場合には債券市場に安心感が広がり、長期金利の上昇が抑制されることも想定されます。また、米政府機関の一部閉鎖が米経済の混乱につながりかねないとの懸念から相対的に安全資産とされる米国債への買いが広がり、米長期金利が低下すると、若干ながらも国内金利にも低下圧力がかかる可能性があります。30年国債入札も確認したいところです。

◆Jリート：方向感を探る

【予想レンジ】東証REIT指数

(来週) 1,875～1,930ポイント (10月) 1,875～1,975ポイント



(出所) 信頼できると判断したデータをもとにしんきん投信作成

今週のJリート市場は、引き続き半期決算を控えた金融機関からと思われる売りや東証REIT指数（配当なし）

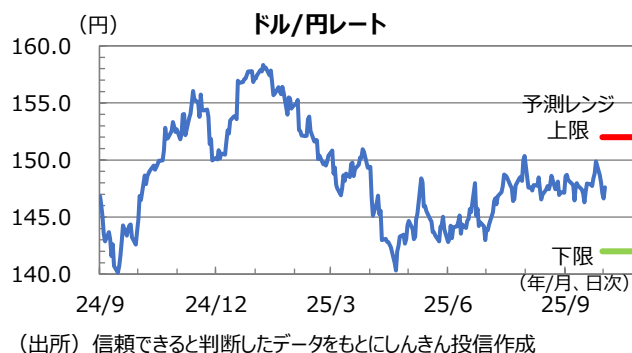
1,950ポイント付近で戻り売りが見られたことから下落しました。今週末の分配金利回りは4.719%（東証上場REITの予想分配金利回り、QUICK算出）となりました。

来週は、自民党総裁選の結果や長期金利の動向を確認しながら、方向感を探る展開を見込んでいます。自民党新総裁が打ち出す経済政策や連立政権樹立に向けた野党との連携の行方次第で、財政拡張懸念から長期金利が上昇する可能性があり、その場合はJリート市場の下押し圧力となりそうです。とはいえ、値下がりした局面では下値を拾う買いや4%台後半の分配金利回りに着目した買いが見込まれることから、下値も限定的になると見込んでいます。

◆為替：値動きの荒い展開

【予想レンジ】ドル円レート

(来週) 144.0～150.0円 (10月) 142.0～152.0円



今週のドル円相場は、ドル安・円高が進行しました。週初は、利上げの必要性の高まりに言及した野口日銀審議委員の講演を受けて、日銀の追加利上げ観測が高まったことから、円高圧力が強まりました。その後は、米政府機関の閉鎖を受け、ドルを手放す動きが広がり、一時1ドル＝146円までドル安・円高が進行しました。週末にかけては、植田日銀総裁の講演が想定以上に利上げに慎重であったことから、やや値を戻しました。

来週のドル円相場は、値動きの荒い展開が予想されます。今週末に実施される自民党総裁選の結果次第で、大きく変動する可能性があります。また、米国については、経済指標の発表が延期されるなかで、手掛かりの乏しい展開が続きそうですが、政府機関の再開の目途が立てば、ドルを買い戻す動きが広がる可能性があります。

◆米国株：米政治動向に注目

【予想レンジ】NYダウ

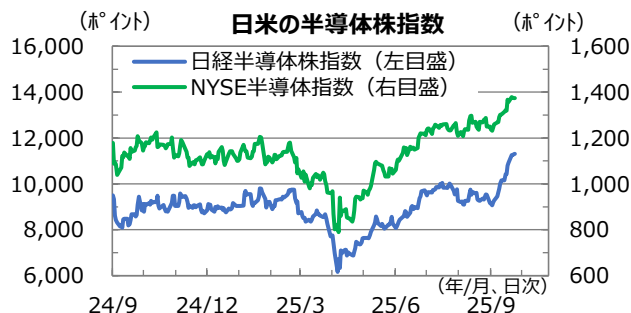
(来週) 45,500～47,000ドル (10月) 40,000～47,000ドル



今週の米国株は、底堅い動きとなりました。政府機関の一部閉鎖が決まったことが株価の重しとなりましたが、労働市場の減速を示唆する経済指標の発表を受けて米利下げ期待が高まったことが株価を押し上げました。半導体関連株は、AI普及の恩恵を受けるとみられるエヌビディアなどが上昇し、堅調な動きとなりました。

来週は、米政治動向が注目されます。政府機関の一部閉鎖が決まったことで、雇用統計などの重要な経済指標の発表が遅れる見込みです。重要な経済指標が発表されない状況が続くと、様子見姿勢が強まり、相場の動きは限定的になることが予想されます。仮に、共和党と民主党の予算交渉が進展し、政府機関の閉鎖が収束する見通しとなれば、投資家心理が改善し、株価を押し上げる可能性があります。

◆参考図表



(注) 原油はニューヨーク商業取引所 (NYMEX) のWTI先物。金はニューヨーク商業取引所 (NYMEX) COMEX部門の金先物。
(出所) 信頼できると判断したデータをもとにしんきん投信作成

■ 来週の主な内外スケジュール

	国 内	海 外
10/6 月		ユーロ圏小売売上高（8月）
10/7 火	家計調査（8月） 景気動向指数（8月、速報値） 30年利付国債入札	米貿易収支（8月） 中国外貨準備高（9月）
10/8 水	毎月勤労統計調査（8月） 景気ウォッチャー調査（9月） 国際収支（8月）	米3年国債入札
10/9 木	5年利付国債入札	米FOMC議事要旨（9/16・17開催分） 米卸売在庫（8月、確報値） 米10年国債入札
10/10 金	貸出・預金動向（9月） 企業物価指数（9月）	米ミシガン大学消費者マインド指数（10月、速報値） 米30年国債入札

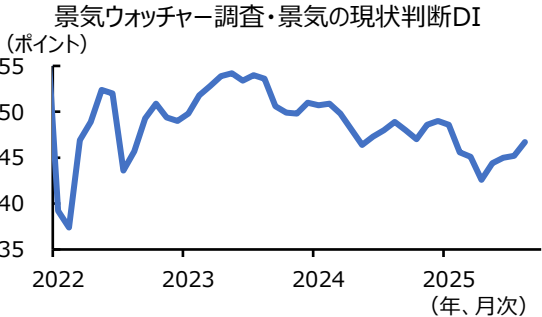
（注）スケジュールの内容、日程が変更になる可能性があります。
（出所）各種報道をもとに、しんきん投信作成

■ 来週の注目点

景気ウォッチャー調査（9月） 10月8日（水）発表

景気ウォッチャー調査によると、8月の現状判断DI（ディフュージョン・インデックス）は、前月差+1.5ポイントと4か月連続で上昇しました。猛暑の影響で夏物消費が好調だったほか、堅調なインバウンド需要が景況感の追い風になりました。

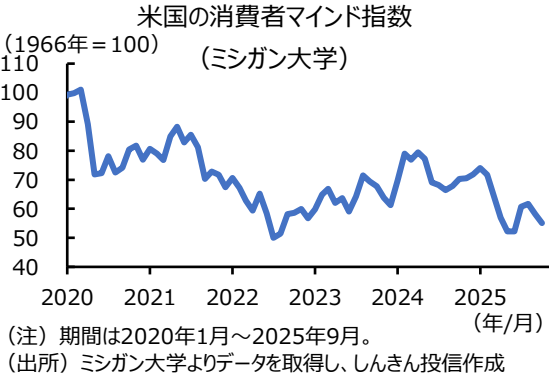
9月の現状判断DIは弱含む見込みです。所得・雇用環境の緩やかな改善が続いているものの、食料品を中心とする物価高が重しとなり、景況感の改善が一服するとみられます。



米ミシガン大学消費者マインド指数（10月、速報値） 10月10日（金）発表

9月の米ミシガン大学消費者マインド指数は55.1と2か月連続で低下し、4か月ぶりの低水準となりました。関税政策による物価高への懸念に加え、労働市場の減速が、消費者マインドを下押ししたとみられます。

10月の消費者マインド指数は悪化することが予想されます。関税政策による物価高への懸念がくすぶる状況が続くほか、米政府機関の閉鎖による公的サービスの停止や社会保障給付の遅れなどが、消費者マインドの下押しに作用する可能性があります。



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※ 本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※ 本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※ 本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※ 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※ 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※ 特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限3.3%(税抜3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限0.3%

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、上限年率1.628%(税抜年率1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

- ※ 本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。